

たっぴん どぴっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

▶一中PTAで広報紙作成を担当した役員の方々の皆さん。



一中PTA 広報紙が全国2位

安来第一中学校 PTA 広報紙がこのほど、全国小・中学校 PTA 広報紙コンクール中学校の部で全国2位となる「日本教育新聞社社長賞」を受賞しました。

同紙では、PTA 活動や学校行事の紹介、シリーズ記事などを掲載。写真を多く取り入れ、学校や地域の人々が楽しく読めるよう工夫が凝らしてあります。

同 PTA 山根久美子会長は「受賞できてうれしい。これからも学校、地域、保護者の架け橋となる広報紙を作りたいです」と話していました。

▶動画配信サイト YouTube で一部編集した動画を公開しています。



ドラマ仕立てに図書館を紹介

市立図書館の魅力を紹介する安来市広報番組「図書館へ行こう！」が2月1日、中国地区番組アワードの企画番組部門で審査員特別賞を受賞しました。

同番組では、子どもや子育て世代、学生をターゲットに地域の文化拠点である図書館の隠れた魅力などを紹介。あらエッサくんや図書館職員が出演し、ドラマ仕立てのつくりとなっています。

番組制作を担当したやすぎどじょこテレビの高橋果菜さんは「これからも『やすぎがスキ』をスローガンに、地域の魅力を発信し、安来を元気にする番組づくりを頑張っていきます」と話していました。

今月の一枚



市民体育館で開催されたプロバスケットボールチーム「島根スサノオマジック」の公式戦。「横浜ビー・コルセアーズ」を相手に豪快なシュートやドリブルで観客を沸かせました。(令和2年12月26日)

協同組合で人材派遣 市長日記

島根県内3例目となる「特定地域づくり事業協同組合」が安来市に誕生しました。

同組合では、働き手が不足する事業者へ組合が雇用した移住者などの人材を派遣します。この取り組みにより人口流出の抑制とUIターン促進が図られ、地域の人口減少対策や活性化につながるものと考えています。



▲創立総会が1月19日に行われました。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▶会場の手拍子にあわせ安来節を披露する出雲俊之助名人（左）。



安来節 唄の部で名人誕生

安来節の唄の部門で、4年ぶりに名人が誕生しました。名人に昇格したのは、安来節保存会加茂支部長の出雲俊之助（本名：今岡俊朗）さん。1月15日には、市役所安来庁舎で名人昇格者免状授与式と安来節の昇格披露が行われました。

最高位の「名人」は現役で9人が在籍。唄の部門は、平成29年の出雲正之助名人に続いて、4人目となります。

出雲俊之助名人は「日々精進して後進の指導に努めていきます」と話していました。

地域の文化財を守る！

昭和24年1月26日に国宝の法隆寺金堂が火事で焼けたことをきっかけに定められた文化財防火デー。これにあわせ1月26日、清水寺で清水自衛消防団による放水訓練が行われました。

この訓練は、同寺の三重塔から出火したとの想定で実施。団員ら9人が参加し、掛け声に合わせて一斉に放水しました。

同消防団の青山欣司副団長は「消防車がすぐに来れる場所ではないので、今後も訓練を怠らないようにしていきたい」と話していました。



▶同消防団は2カ月に一度、消防機材の点検を行っています。

いち市を盛り上げる山姥

正月前の買い物でにぎわう「母里市やまんば祭」が12月25日に母里交流センター周辺で行われました。母里藩の勘定奉行が老女にお金を配らせ、賑わいをもたせたと伝えられていることから、「やまんば祭」と名付けられたこの市。現在では、認定こども園母里の園児や買い物客に山姥がアメや福引き券を配って盛り上げています。

母里市やまんば祭実行委員会の柵瀬繁人会長は、「新しい年に向け、買い物を楽しんでもらって、来場した皆さんが元気になってくれるとうれしいです」と話していました。

▶アメを配る山姥に手を差しのばす園児たち。



▶受賞作品「雲錦研出時絵台鉢」を持つ漆原さん。

工芸部門で県展知事賞を受賞

第53回島根県総合美術展の工芸部門で、このほど漆原彬之さんの作品が知事賞を受賞しました。新鮮さを感じさせる8枚の黒い葉と、伝統的な季節感との融合が、オリジナリティと魅力を与えている点が評価されました。

この美術展は、県内在住者などを対象に、日頃の創作活動の成果を発表する場として毎年開催。島根県が主催し、「県展」の愛称で親しまれています。

今回は日本画、書、洋画、工芸などの7部門に合計517点の応募がありました。工芸部門では47点が出品され、その中からの受賞となりました。

